

図1 諫早湾のアサリ養殖場(緑色の部分)とほぼ 100%の斃死を生じた場所(赤囲い)、連続観測機器設置点(旗印)およびアサリ健康度を調べるための体腔液採取部位。

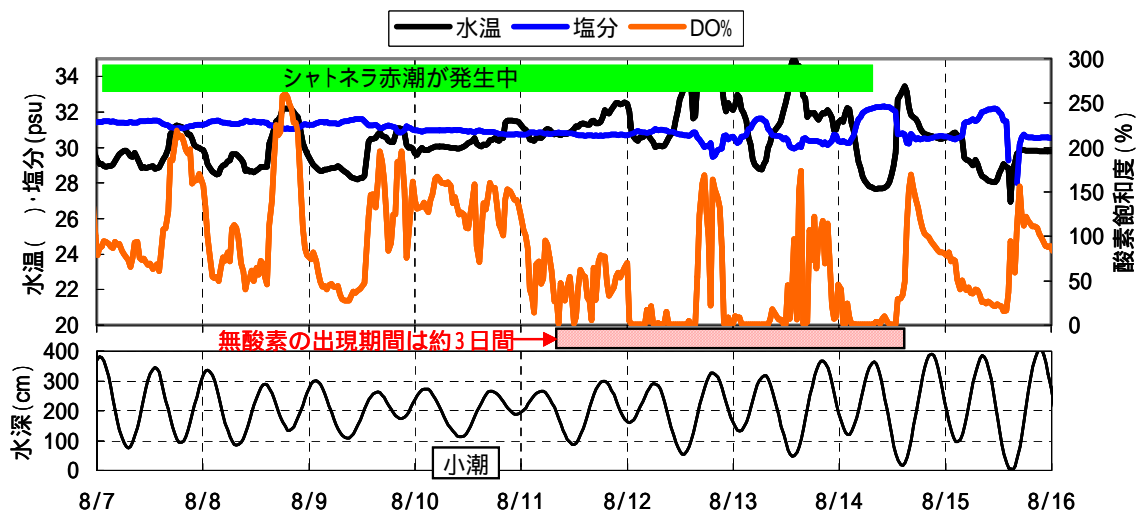


図2 連続観測機器による水温、塩分、溶存酸素および水深の変化。  
シャトネラ赤潮により溶存酸素が激しく上下し、小潮の後から3日間にわたり無酸素が記録されている(2003年も同様の傾向が見られた)。

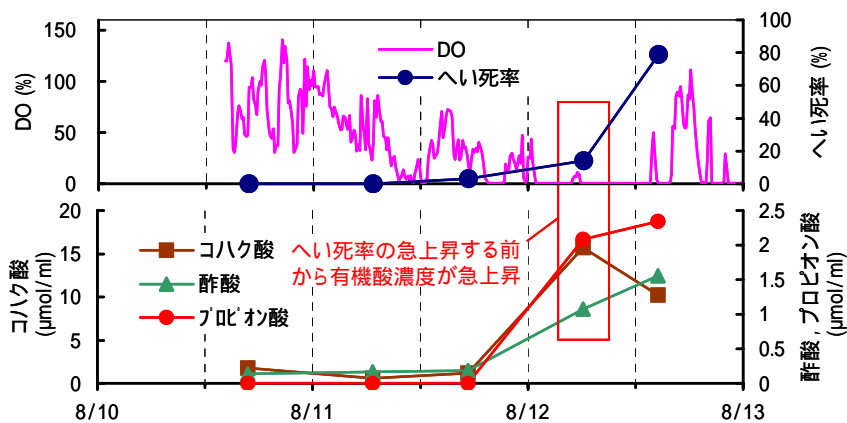


図3 溶存酸素とアサリへい死率との関係および体腔液中の各種有機酸含量  
8月10日に採取したアサリを網袋に入れて海底に沈め、11、12日に2回ずつ取り上げてへい死率を求めると共に体腔液試料を採取した。へい死率が急上昇する前にコハク酸やプロピオン酸含量が急上昇している。

〔公表の可否〕 印刷物 可  
水研センターHP 可